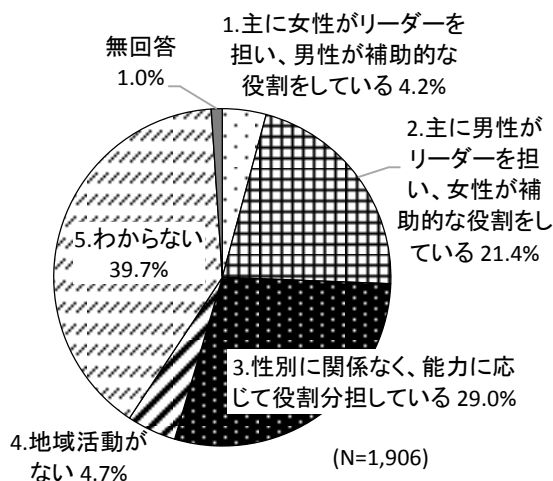


(2) 家庭生活や地域活動などについて

問 12 自治会やボランティアなどの地域活動における男女の役割分担について、「あなたの地域の実態」と、それについての「あなたの考え」を教えてください。

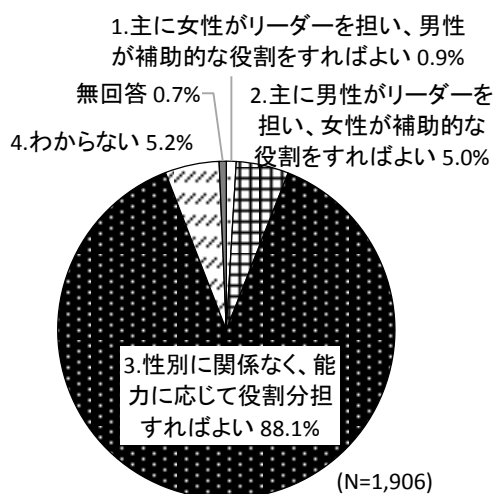
問 12-1. あなたの地域の実態 (あてはまるもの1つに○)

「5. わからない」が最も多く 39.7%、次いで「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担している」が 29.0%、「2. 主に男性がリーダーを担い、女性が補助的な役割をしている」が 21.4%であった。



問 12-2. あなたの考え (あてはまるもの1つに○)

「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担すればよい」が最も多く 88.1%、次いで「4. わからない」が 5.2%、「2. 主に男性がリーダーを担い、女性が補助的な役割をすればよい」が 5.0%であった。

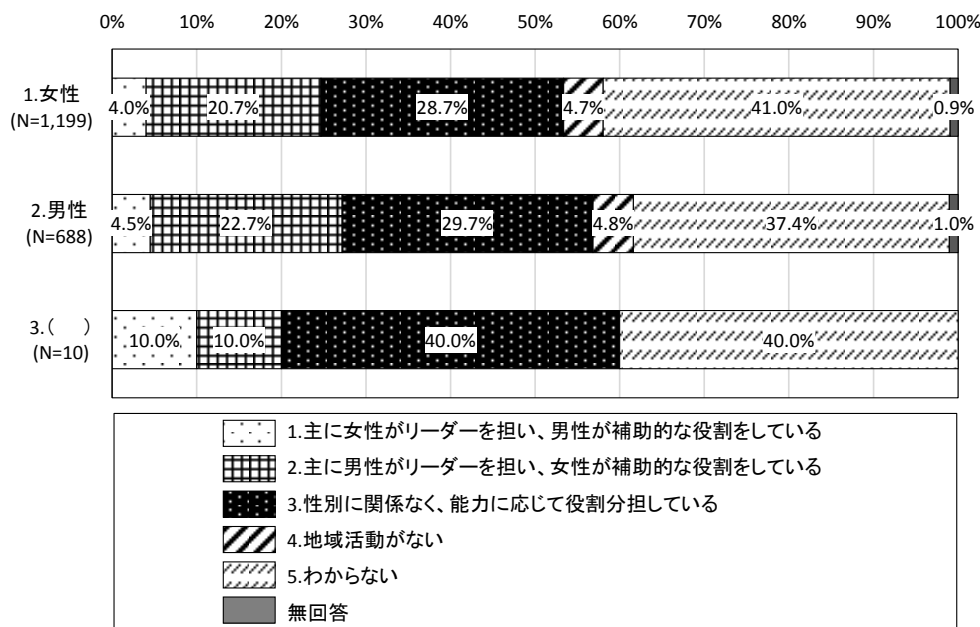


3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて

性別

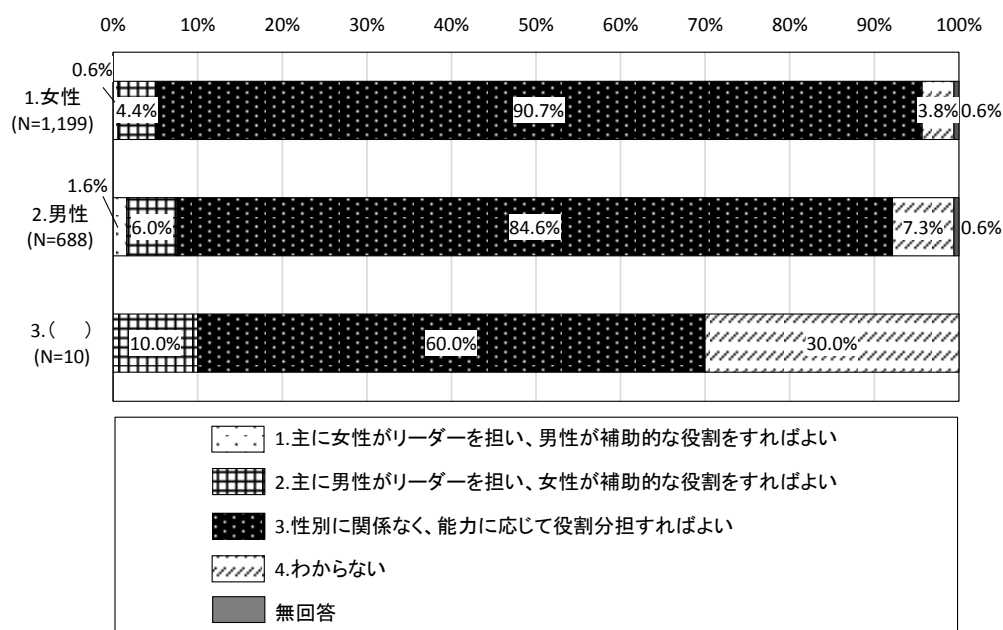
問 12-1. あなたの地域の実態 (あてはまるもの1つに○)

男女ともに「5. わからない」が最も多く、次いで「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担している」であった。



問 12-2. あなたの考え (あてはまるもの1つに○)

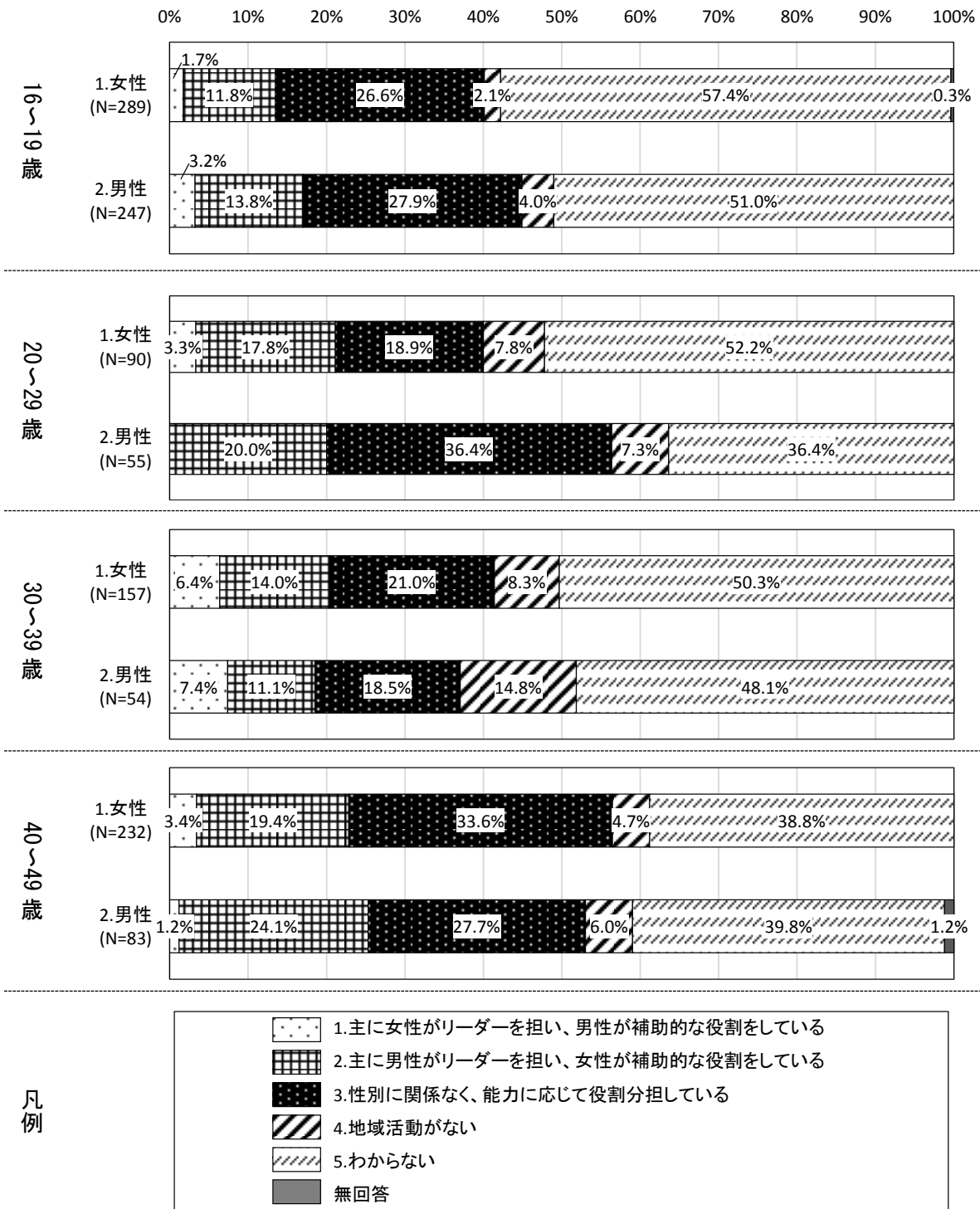
男女ともに「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担すればよい」が最も多くなっている。



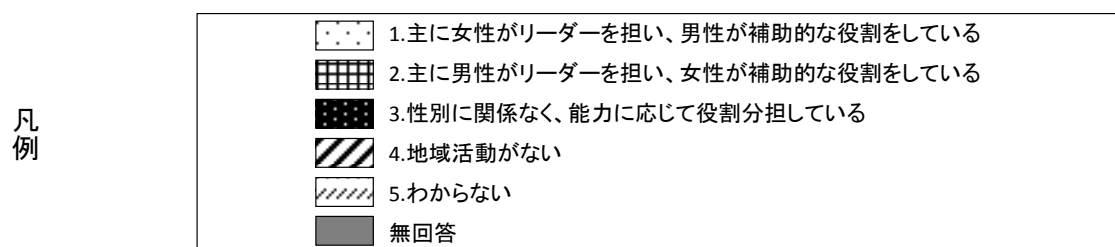
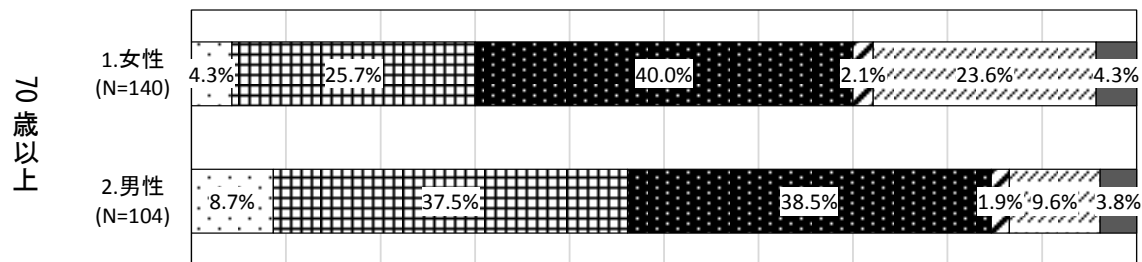
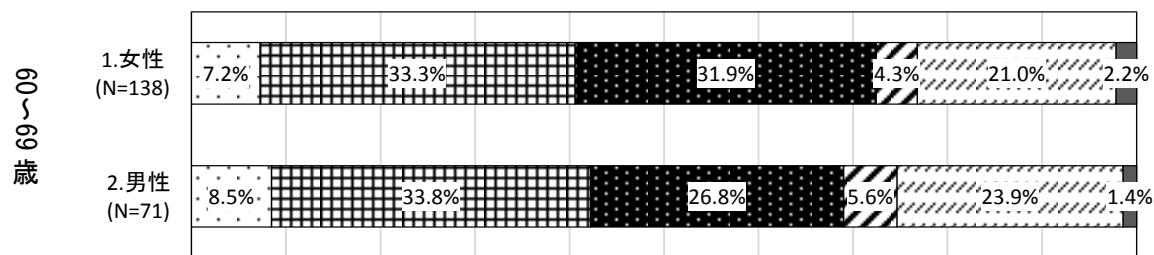
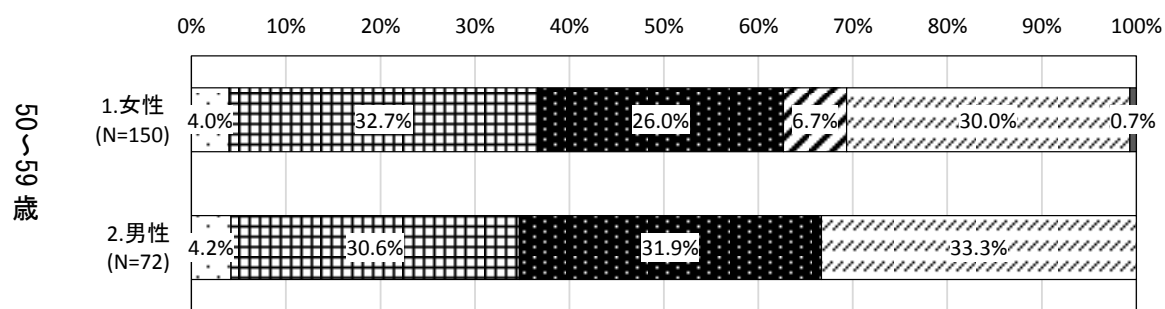
年齢別かつ性別

問 12-1. あなたの地域の実態 (あてはまるもの1つに○)

「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担している」について、女性と男性で意識が大きく異なる年齢層は20～29歳であった。

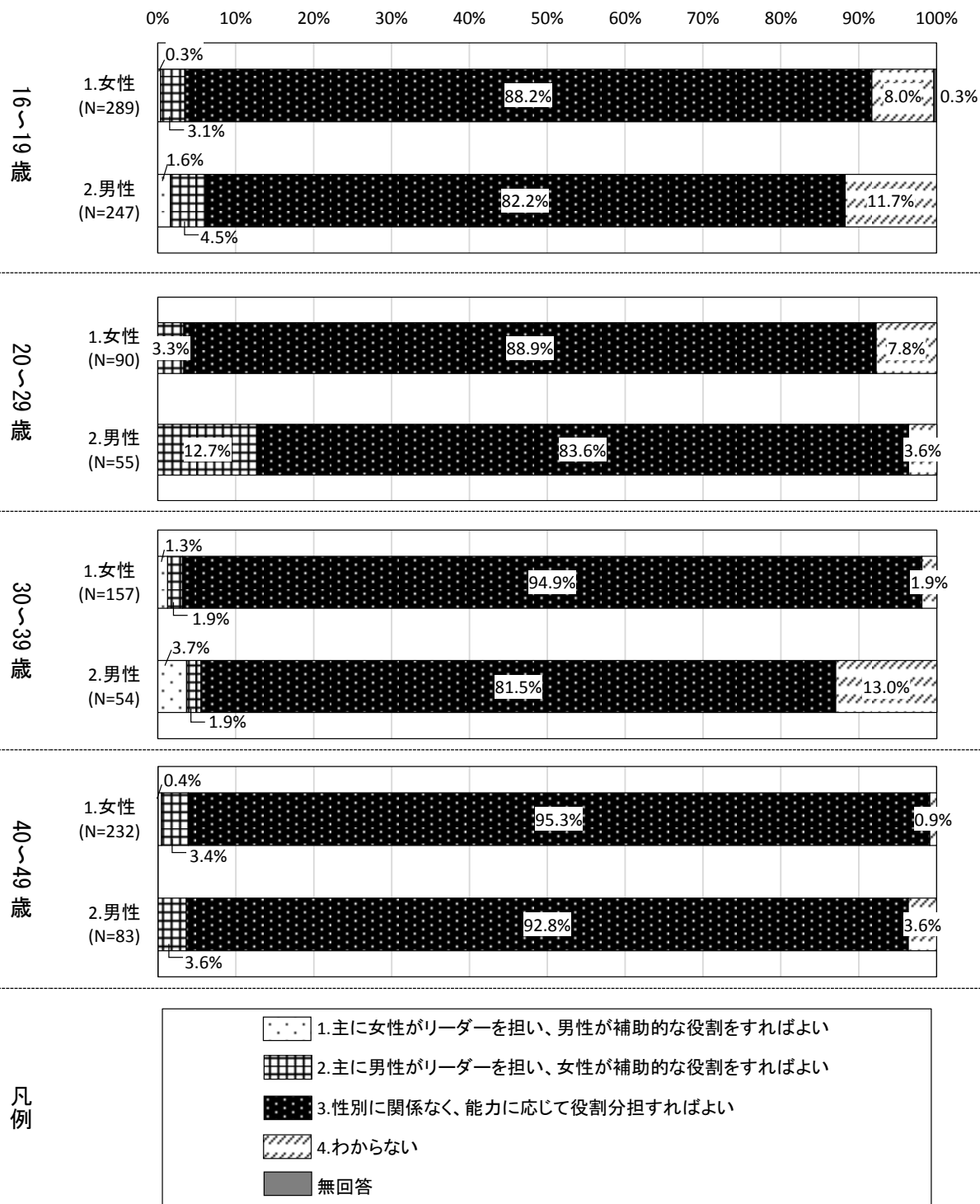


3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて

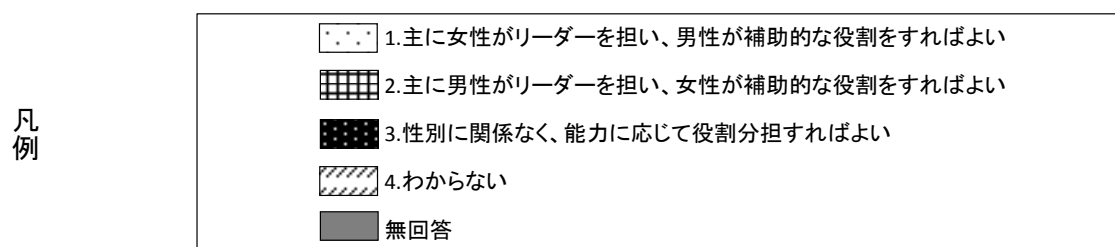
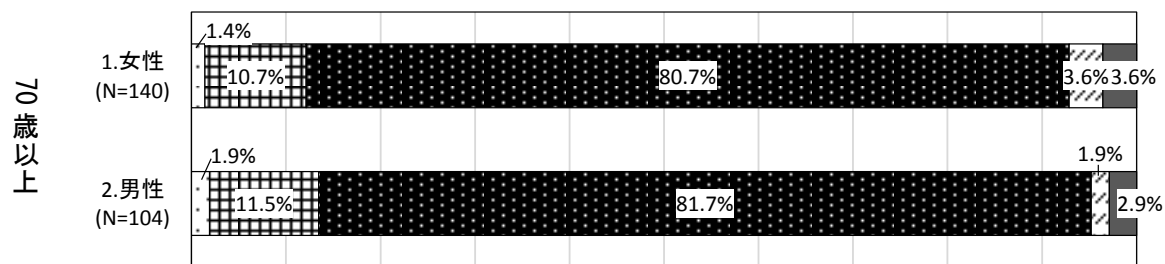
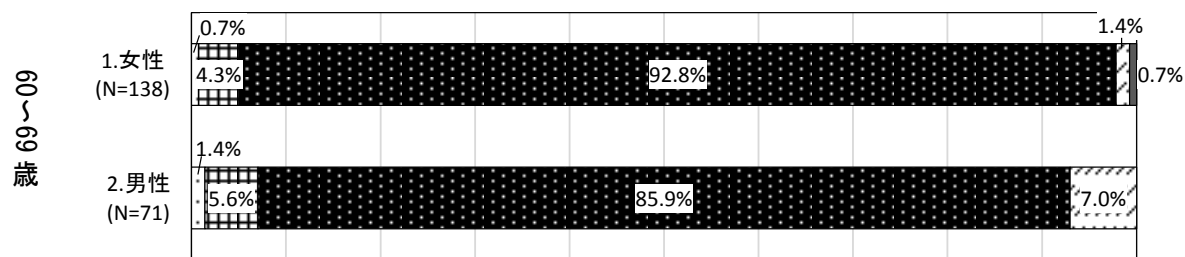
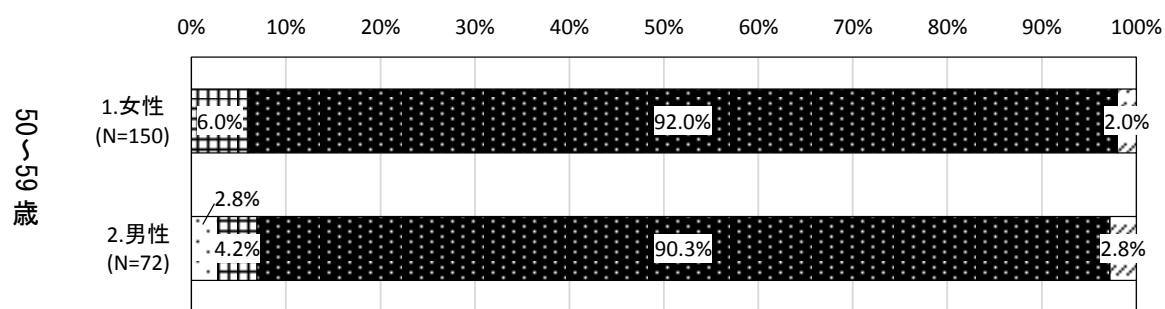


問 12-2. あなたの考え (あてはまるもの1つに○)

いずれも「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担すればよい」が最も多くなっている。
 また、「3. 性別に関係なく、能力に応じて役割分担すればよい」で、女性と男性で意識が大きく異なる年齢層は30～39歳であり、男性より女性の割合が多くなっている。



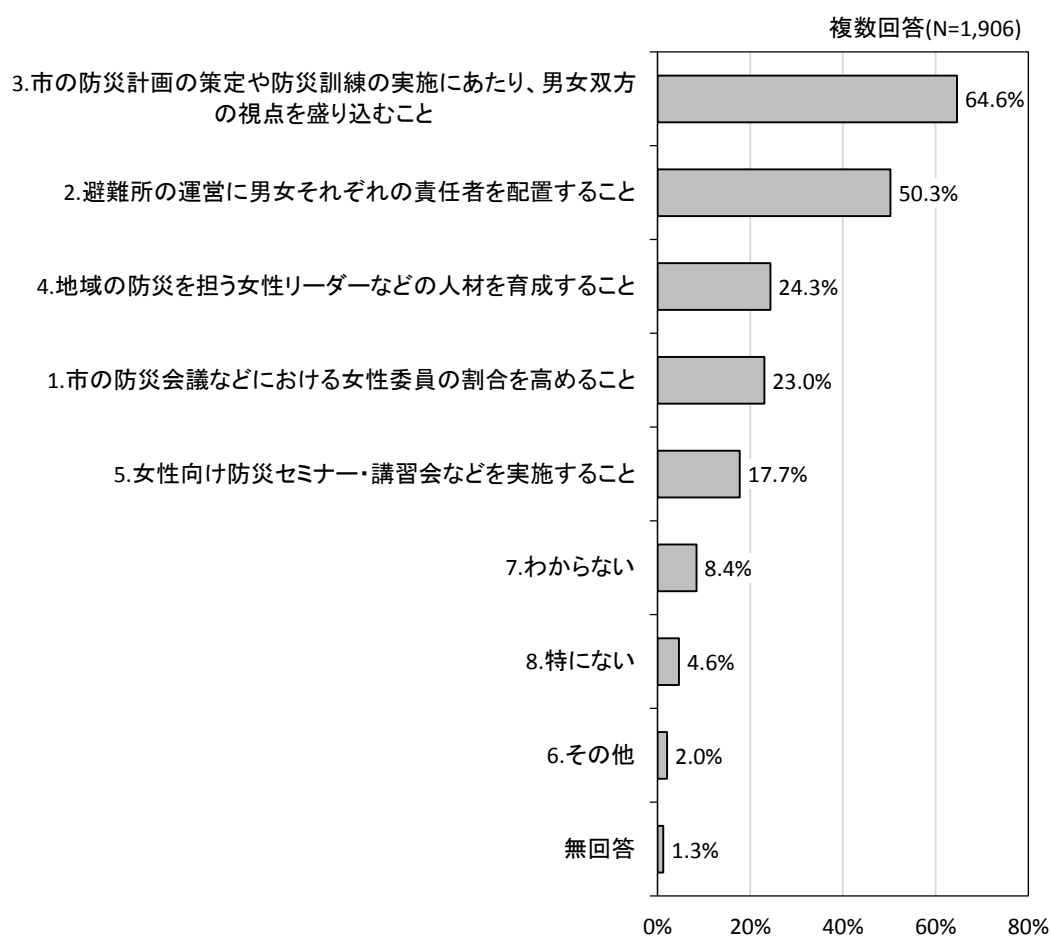
3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて



問 13 これまで防災分野においては、その活動や対策などが男性主体で行われてきたことが多い傾向にありました。今後、男女それぞれのニーズに配慮した活動や支援などを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、災害時に男女の違いにより困ったことやそれを改善する具体的な案などがあればご記入ください。

問 13-1. 男女のニーズに配慮した活動や支援の推進のために必要だと思うこと
(優先的にすべきもの3つまでに○)

「3. 市の防災計画の策定や防災訓練の実施にあたり、男女双方の視点を盛り込むこと」が最も多く64.6%、次いで「2. 避難所の運営に男女それぞれの責任者を配置すること」が50.3%、「1. 市の防災会議などにおける女性委員の割合を高めること」が23.0%であった。



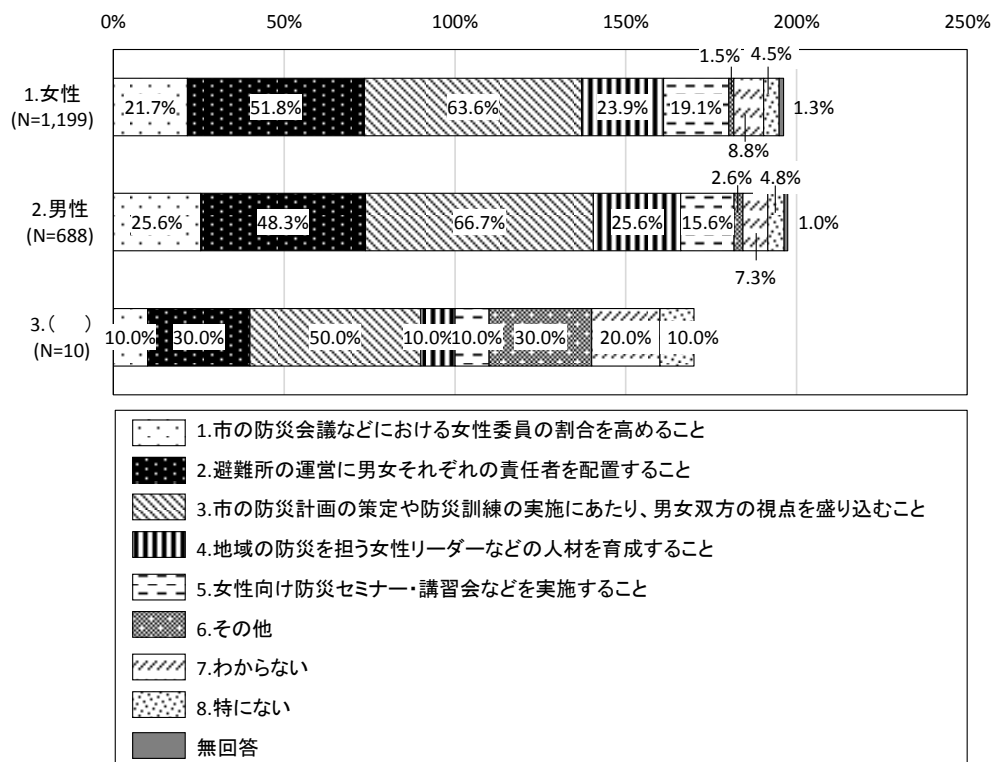
「6. その他」の回答

- ・市民に市の防災会議で議論された内容を公表すること。
- ・実際、被災した人達の経験を、知る機会をつくる。
- ・男女で区別はよくないが、性差で（体力等）分けるべき仕事、役割はある。 等

性別

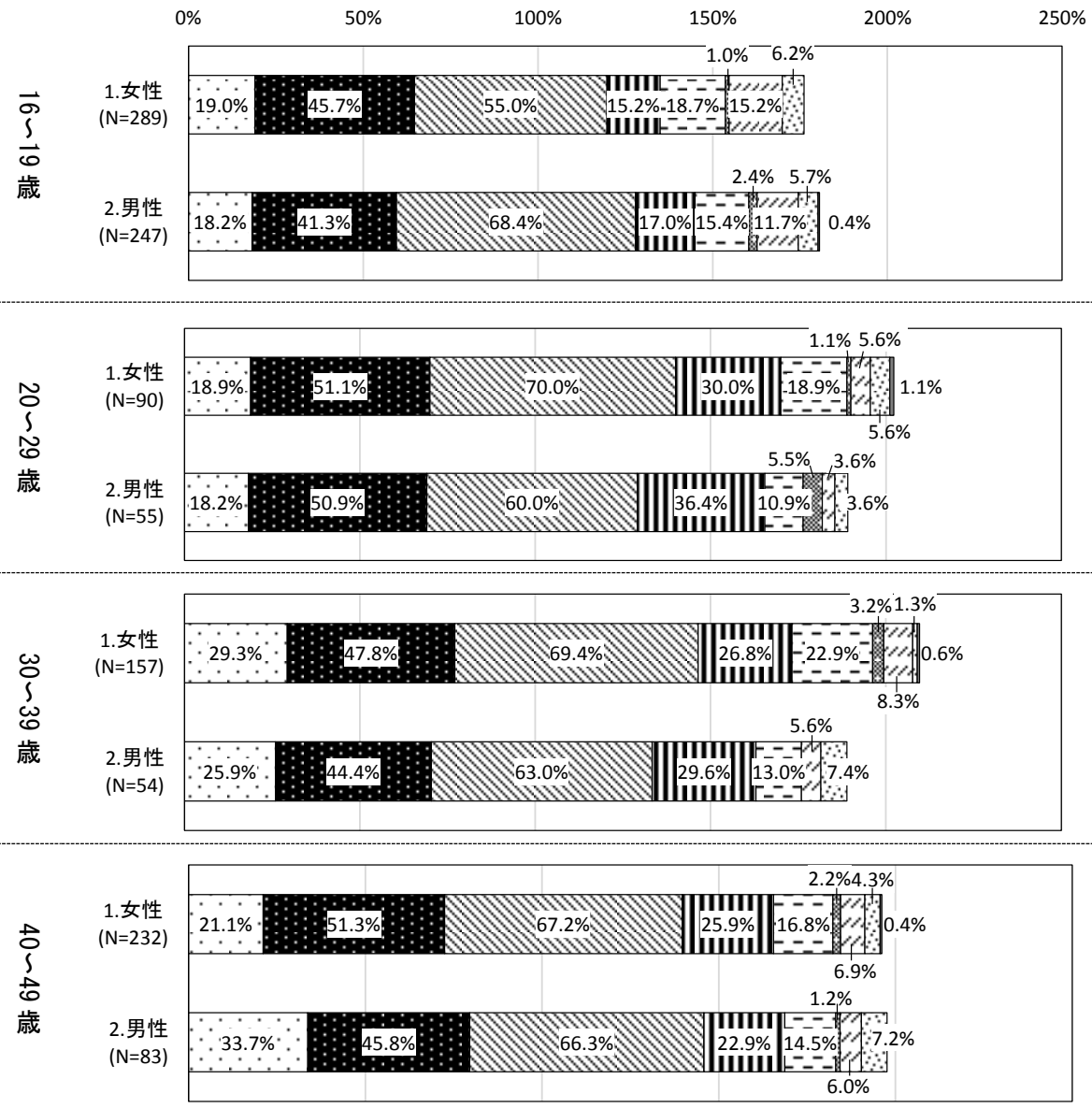
男女ともに「3. 市の防災計画の策定や防災訓練の実施にあたり、男女双方の視点を盛り込むこと」が最も多く、次いで「2. 避難所の運営に男女それぞれの責任者を配置すること」であった。

なお、「2. 避難所の運営に男女それぞれの責任者を配置すること」は、男性より女性の割合が多くなっている。



年齢別かつ性別

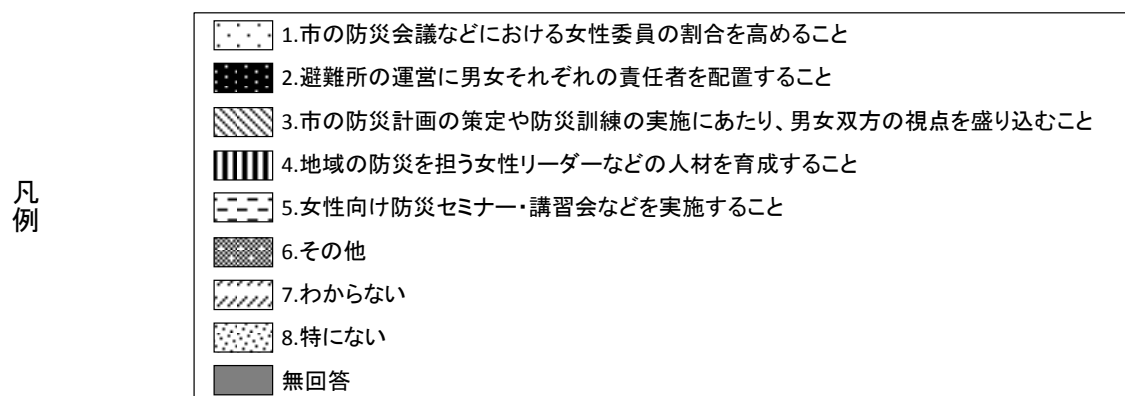
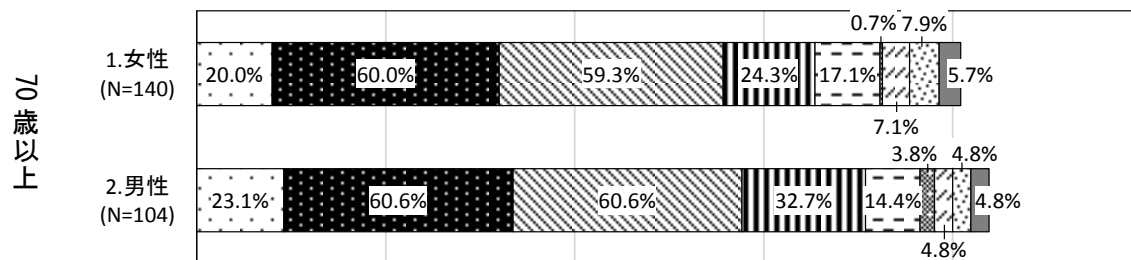
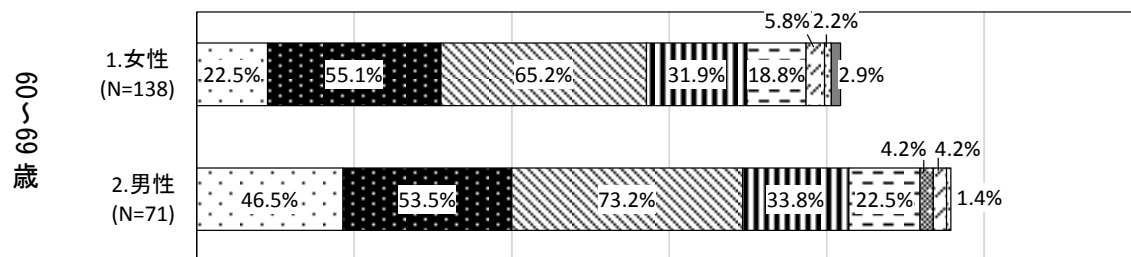
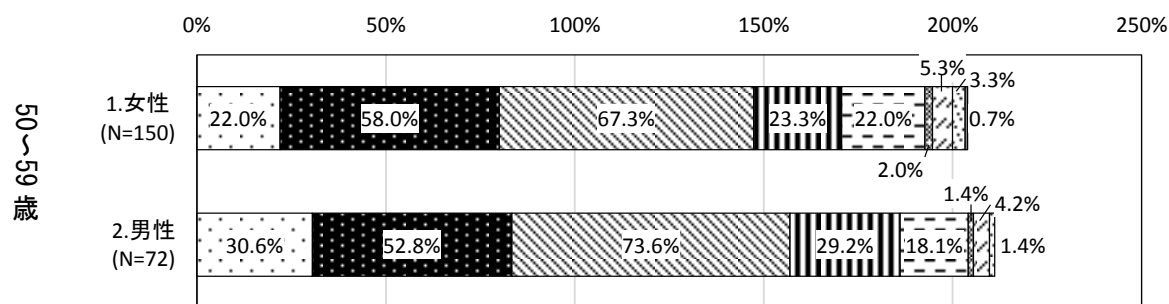
70歳以上を除いて、いずれの年齢層も「3.市の防災計画の策定や防災訓練の実施にあたり、男女双方の視点を盛り込むこと」が最も多く、次いで「2.避難所の運営に男女それぞれの責任者を配置すること」であった。



凡例

- 1.市の防災会議などにおける女性委員の割合を高めること
- 2.避難所の運営に男女それぞれの責任者を配置すること
- 3.市の防災計画の策定や防災訓練の実施にあたり、男女双方の視点を盛り込むこと
- 4.地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること
- 5.女性向け防災セミナー・講習会などを実施すること
- 6.その他
- 7.わからない
- 8.特になし
- 無回答

3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて



問 13-2. 災害時に男女の違いにより困ったことやそれを改善する具体的な案（自由記入）

●自由意見数

意見数	206 件
有効回答者数（1,906 人）に占める 自由意見記入者数の割合	10.8%

○性別

項目	件数	割合
1. 女性	136 件	66.0%
2. 男性	70 件	34.0%
3. ()	0 件	0.0%
計	206 件	100.0%

○年齢別

項目	件数	割合
1. 10 歳代	42 件	20.4%
2. 20 歳代	17 件	8.3%
3. 30 歳代	35 件	17.0%
4. 40 歳代	37 件	18.0%
5. 50 歳代	27 件	13.1%
6. 60 歳代	25 件	12.1%
7. 70 歳以上	23 件	11.2%
計	206 件	100.0%

《主な意見》

●災害発生前（計画づくり等）の取組や配慮

◇計画づくりや訓練の段階から男女の視点を取り入れる

- ・毎年のように災害が各地で起こり、少しずつ改善されていると思うが、災害計画段階、訓練時から取り入れてほしいと思う。（40歳代、女性） 等

◇被災時の女性の役割に関するマニュアル作成

- ・女性の目線で見ると細やかな心配りを災害時こそ必要とされるのではないかと。女性の人材を速やかに適所に配属されるマニュアルがあれば動きやすいかと思う。（60歳代、女性） 等

◇男女共同参画の視点で防災訓練を実施

- ・配給や消火・救助活動などでの体力差を改善するために、年に一回でもそういった訓練をするべきだと思う。（10歳代、女性） 等

◇女性対象の防災に関する勉強会を実施

- ・男性は防災に関する情報が入りやすいが、専業主婦については防災に対する情報が入りにくい。女性対象の勉強会等実施する。（50歳代、女性） 等

◇女性主体のチームを発足

- ・お手洗いや着替え、生理用品等の問題。女性のみで起こりうる問題に特化したプロジェクトチームを作り、そのチームで作った冊子（災害時専用の）を配布。（50歳代、女性） 等

◇被災時の男女共同参画に関する事例を共有

- ・避難所や仮設住宅などの実際の事例を、自治体を越えて共有する。自主防災組織のレベルまで下ろす。（40歳代、女性） 等

◇その他

- ・災害時とは関係なく、日頃からの学校・職場での教育が必要だと感じる。（30歳代、女性）
- ・より現実的な防災訓練の実施をすること。AEDの使用法の講習の実施。防災用具（町内会）の定期的なチェック。（60歳代、男性） 等

●災害発生後（避難所運営等）での取組や配慮

1) 人材・体制等に関する意見

◇男女両方の相談員・リーダーを配置

- ・女性であれば生理、月経が災害時に起こると男性には相談しにくいので、男女それぞれ責任者を配置したり、男女をそれぞれ分けて相談所をつくったりすると良いと思う。(20歳代、女性)
- ・男女で捉え方や考え方が違うのは分かりきったことなので、窓口になるリーダー格は最低1名ずつ必要だと思う。ジェンダーレスの立場で考えられる人がリーダーであってほしい。(30歳代、男性) 等

◇女性リーダーや相談員の育成

- ・男性にはわからない女性ならではの困ることは、男性に相談しにくいものが多いと思うので、女性のリーダー育成に力をそそげばいいのではないかと思う。(10歳代、男性)
- ・東日本大震災の報道で、避難所での女性の方々が安心できる環境やメンタルケアが不足していたと聞いた。(10歳代、男性) 等

◇被災時に起こる犯罪への対策

- ・避難所でのトイレの問題、女性や子供に対する性暴力の話などを聞く。トイレなどハード面の対策もあるが、パトロールや避難所内でのコミュニケーションなどで防げる点もあるように思う。(40歳代、女性) 等

◇男女の違いによる役割分担に関する意見

- ・体力勝負の役割（支援物資の分別、配布、夜回り、運搬・運送関係）については男性主体、食事関係は女性主体等、役割により男女の比重を考えて災害組織とするべきでは。(60歳代、女性)
- ・男だからあれをしろ、女だからこれをしろというのも、もはやそぐわなくなっている。地域や家庭の状況に応じ、個々がそれぞれ自分に応じた役割を担えばよい。(40歳代、男性) 等

◇その他

- ・身体の不自由な方々に、今の現状をどう伝えるかを検討してほしい。災害の時に置いてけぼりにならないように。(60歳代、男性) 等

2) 設備・物資等に関する意見

◇トイレ・お風呂・着替えの場を分ける

- ・トイレ・ふろ・着替えを別々に分ける。しかし、セクシュアルマイノリティの人がいる場合は、その人が悲しい気持ちになるので、男女で分けるのではなく着替えの部屋を個別にして、トイレなどは男性・女性・どちらも使えるものを用意してすごしやすくする。(10歳代、女性) 等

◇女性専用スペースの設置(長期避難の場合)

- ・避難が長期になる場合は、女性専用のスペースを作った方がよいのでは。(50歳代、女性) 等

◇女性目線での物資の用意・充実

- ・例えば生理用品等、女性には必要不可欠な物品であるのに、後回しにされたり何となく言い出しにくい雰囲気があったりするものがあり、備えられていて当たり前にしておく必要があるとともに、細かな気配りができればと思う。(40歳代、女性)
- ・生理用品やオムツなどの衛生品、お湯がなくてものませられる常温保存可能な液体ミルクの確保を男性も一緒に考えてほしい。(30歳代、女性) 等

◇その他

- ・地震のとき等はトイレの水が流せなかったりするそうだし、必需品とかが届くのか、心配になるときはある。(10歳代、女性) 等

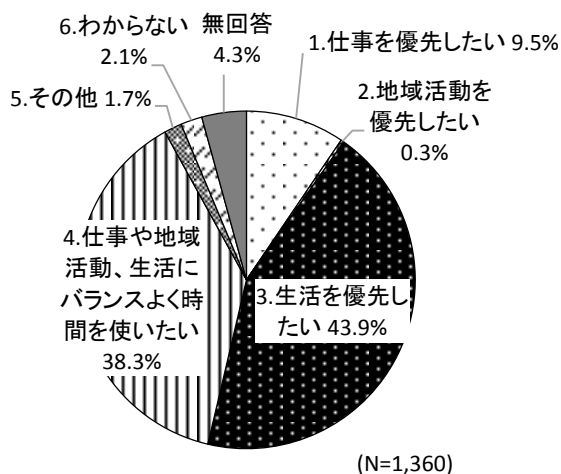
※他の意見をご覧になりたい方は資料編(p.244)へ

【働いた経験がある方におたずねします】

問 14 日々の暮らしの中で、現在のあなたの時間の使い方について、「希望」と「現実」をお答えください。

問 14-1. 希望 (あてはまるもの1つに○)

「3. 生活を優先したい」が最も多く 43.9%、次いで「4. 仕事や地域活動、生活にバランスよく時間を使いたい」が 38.3%であった。

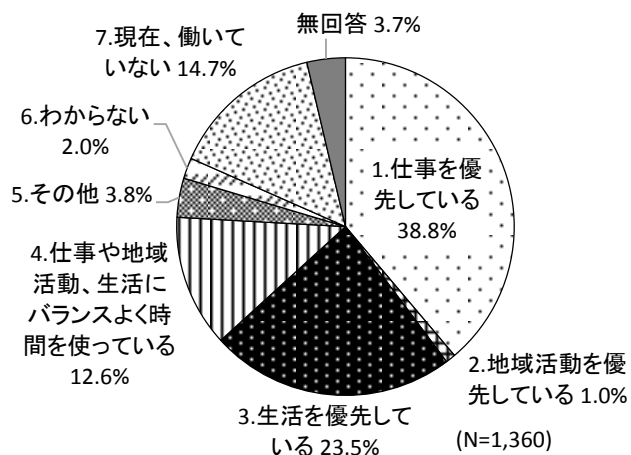


「5.その他」の回答

- ・ 子供が自立するまでは学費もかかる為仕事を中心にしたいが自立後は生活を優先したい。
- ・ 自分(身体)を休める時間や恋人と過ごす時間を優先したい。
- ・ 収入の余裕、安定があれば生活を優先したい。 等

問 14-2. 現実 (あてはまるもの1つに○)

「1. 仕事を優先している」が最も多く 38.8%、次いで「3. 生活を優先している」が 23.5%であった。



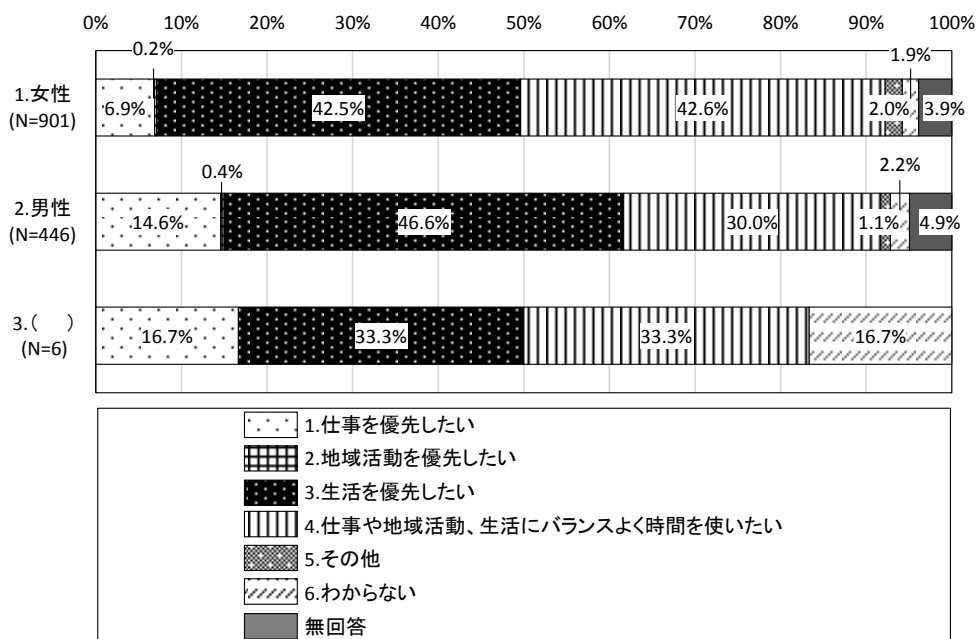
「5.その他」の回答

- ・ どれも時間がたりなくバタバタしている。
- ・ 家事ばかりに追われている、仕事も趣味も全く時間が割けない。
- ・ 介護による食事、家事が優先。 等

性別

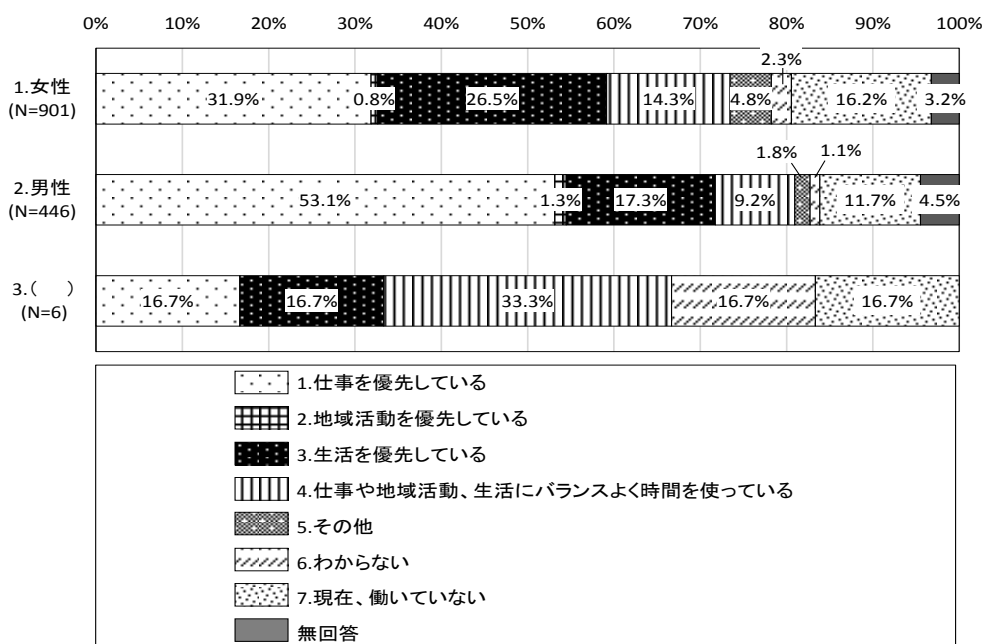
問 14-1. 希望 (あてはまるもの1つに○)

女性は「3. 生活を優先したい」と「4. 仕事や地域活動、生活にバランスよく時間を使いたい」が同程度で最も多く、男性は「3. 生活を優先したい」が最も多くなっている。



問 14-2. 現実 (あてはまるもの1つに○)

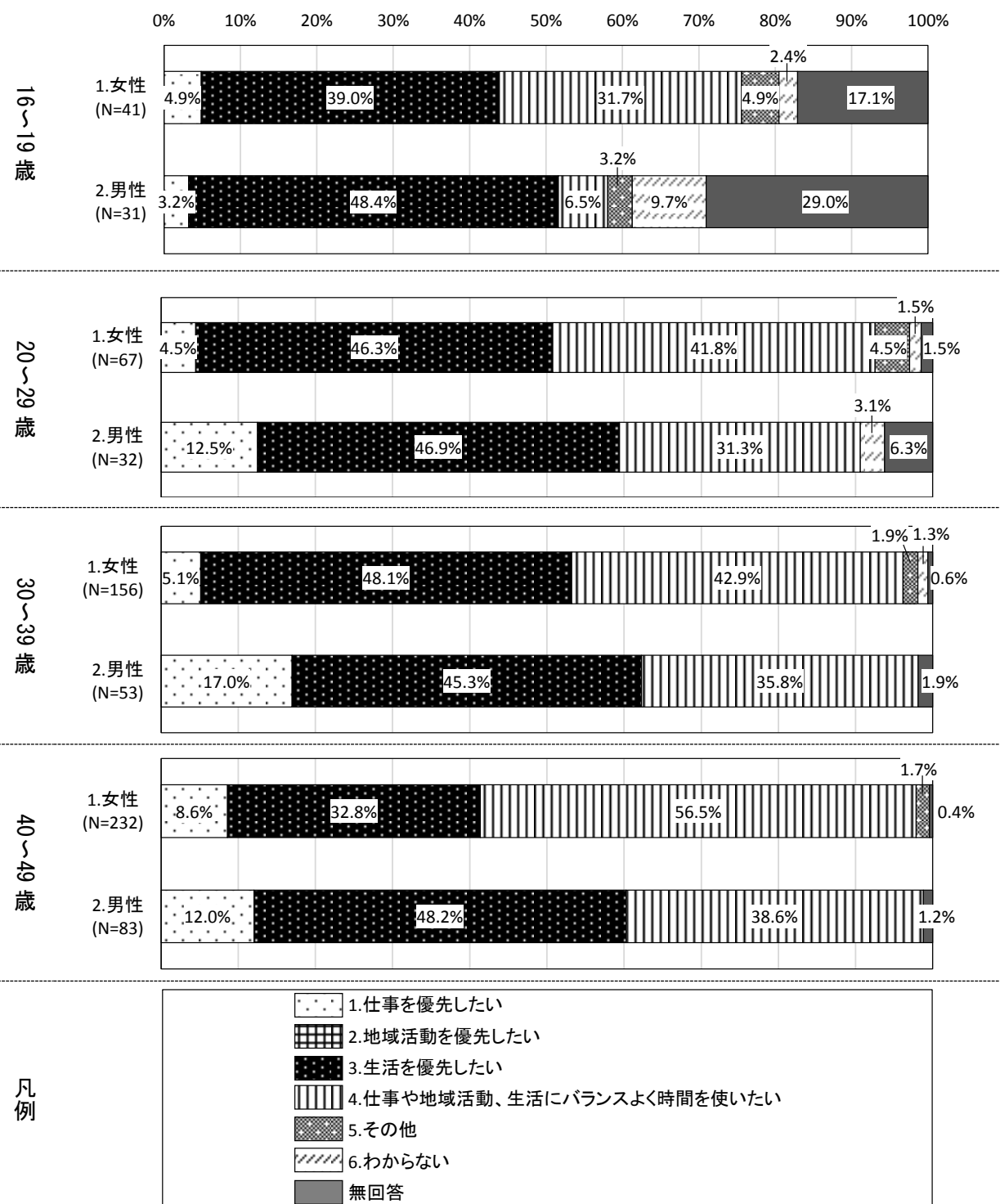
男女ともに「1. 仕事を優先している」が最も多く、次いで「3. 生活を優先している」であった。特に、男性は「1. 仕事を優先している」が約5割と、他と比べて多くなっている。



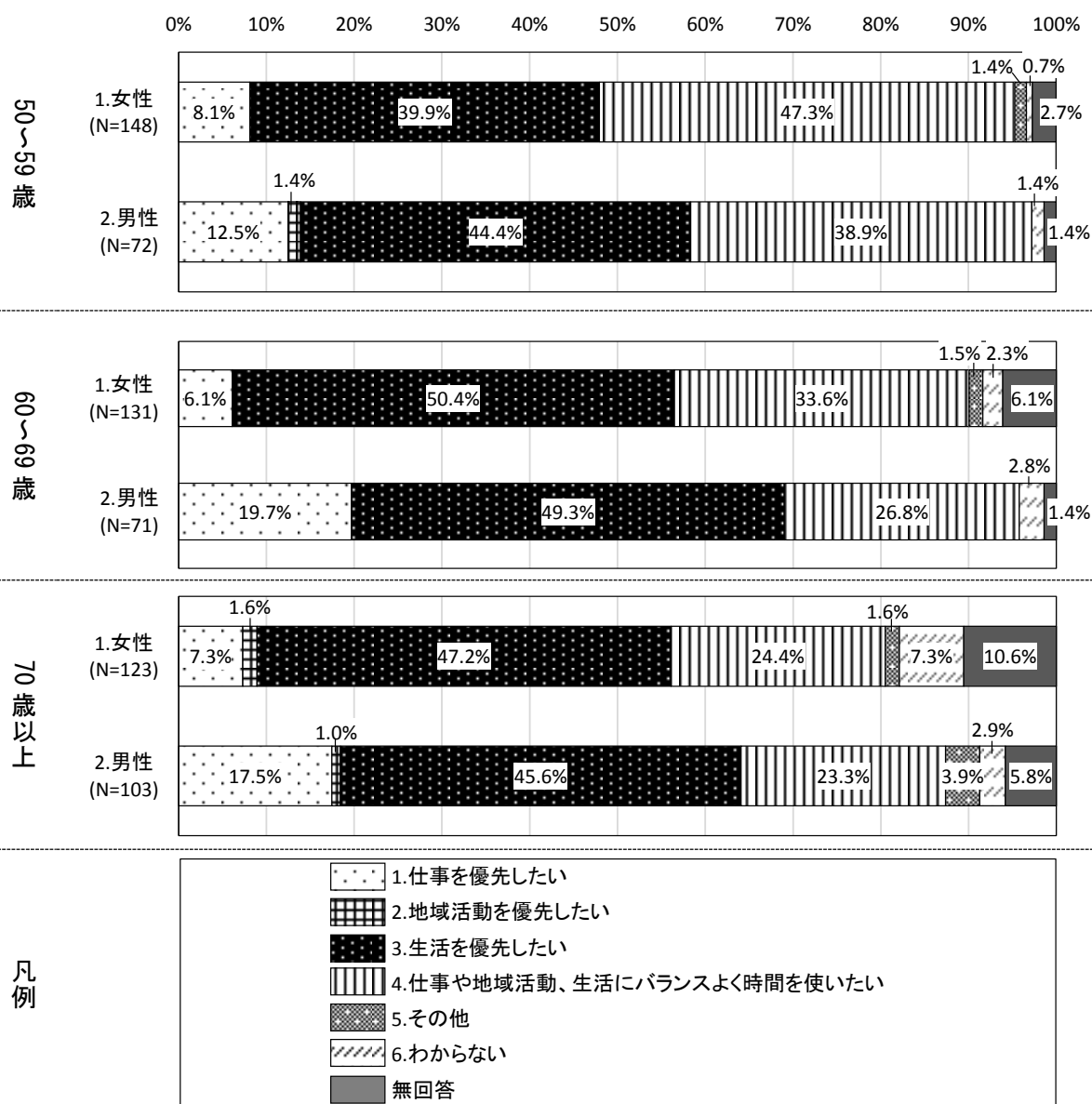
年齢別かつ性別

問 14-1. 希望 (あてはまるもの1つに○)

40～59歳の女性を除いて、いずれの年齢層も「3.生活を優先したい」が最も多くなっている。なお、40～59歳の女性は「4.仕事や地域活動、生活にバランスよく時間を使いたい」が最も多くなっている。



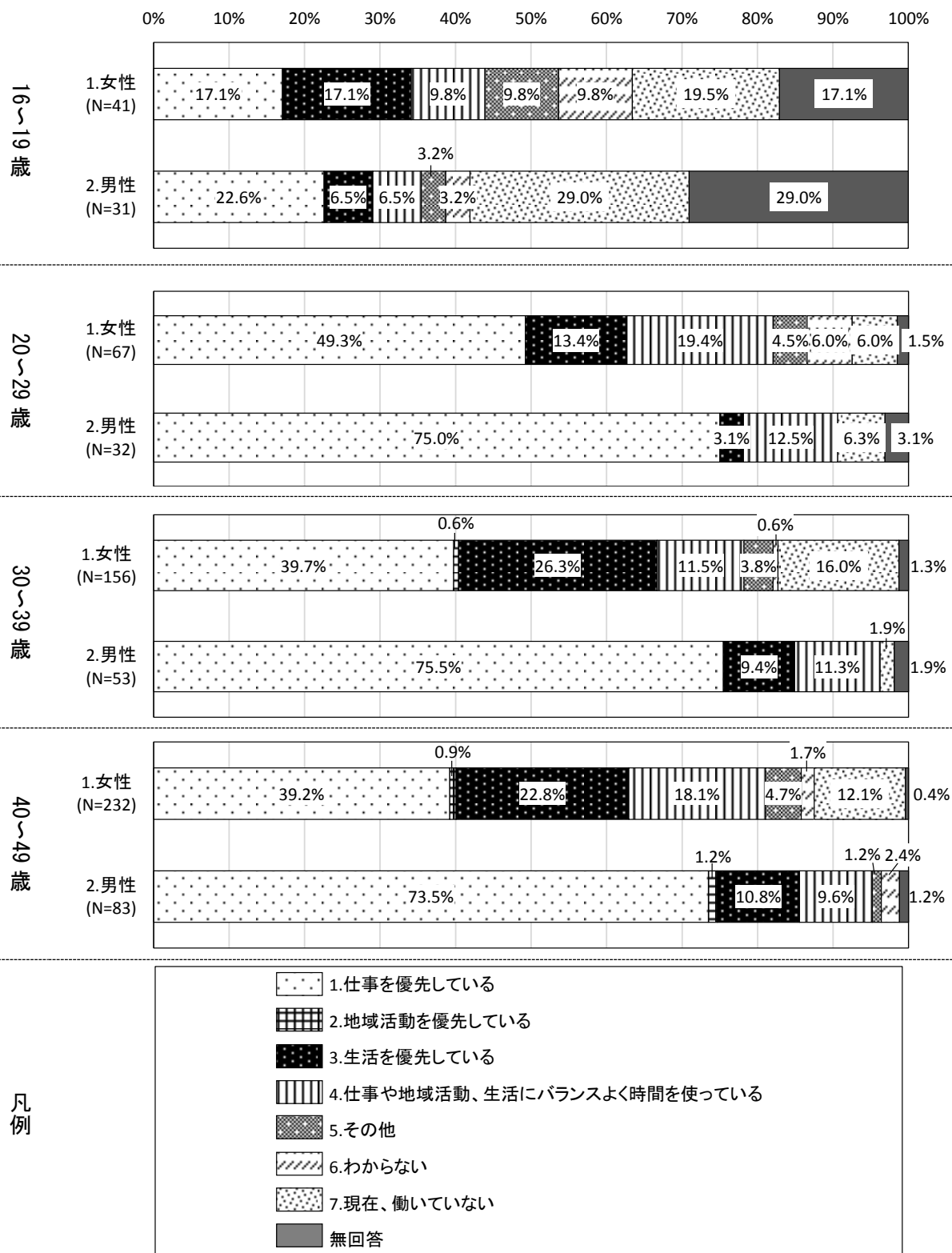
3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて



3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて

問 14-2. 現 実 （あてはまるもの1つに○）

16～19歳、60～69歳の女性、70歳以上を除いて、いずれも「1. 仕事を優先している」が最も多くなっている。なお、16～19歳は「7. 現在、働いていない」が最も多く、60～69歳の女性、70歳以上は「3. 生活を優先している」が最も多くなっている。



3 調査結果
家庭生活や地域活動などについて

